

関係各研究機関
科学研究費助成事業担当課 御中

文部科学省研究振興局
学 術 研 究 助 成 課

平成27年度科学研究費助成事業に係る課題番号の符番ルール
変更について（通知）

科学研究費助成事業（科研費）については、先日閣議決定された平成27年度予算案において、質の高い多様な学術研究を推進するとともに、若手研究者を中心とした国際的な研究ネットワークの形成など、卓越した知の創出力を強化するため、科研費の抜本改革に着手することとしております。（別添参照）

具体的には、「学術研究助成基金」の交付対象を見直すこととし、（1）国際社会における我が国の学術研究の存在感を向上させるための国際共同研究や海外ネットワーク形成の促進の観点から、①科研費に採択された若手研究者を海外の大学や研究機関に派遣、②新学術領域研究に「国際活動支援班」を創設し、国際研究ネットワークの形成を促進、③海外の優秀な日本人研究者の科研費の予約採択（海外日本人研究者の「呼び戻し」）に係る制度を創設し、これらの研究課題に基金から助成金を交付するとともに、（2）細目にこだわらない分野融合的研究を引き出す新しい審査方式の先導的試行である「特設分野研究」の充実を図り、基盤研究（B・C）（審査区分「特設分野研究」）について、平成27年度新規採択課題以降、基金から助成金を交付する予定です。

なお、平成24年度に導入した基金・補助金の混合種目（基盤研究（B）（審査区分「特設分野研究」を除く）、若手研究（A））については、平成27年度新規採択課題より補助金を交付する予定です。これに伴い、同一研究種目中での研究課題の交付財源による区別が可能となるよう、平成27年度新規採択課題より、課題番号に交付財源（基金又は補助金）等の情報を加えるため、下記のとおり符番ルールを変更する予定です。お知らせします。関係各研究機関におかれましては、予めご留意いただきますようお願いいたします。

記

1. 現行

課題番号の基本構成：8桁、和暦、数字（0～9）、半角で構成

2. 変更後

課題番号の基本構成：8桁、西暦、数字（0～9）及びアルファベット（大文字）、半角で構成

<例示については、次頁のとおり>

<例示>

(例示1：基盤研究(B)(審査区分「一般」)の符番ルール)

現 行

H26年度新規

26299999

※継続課題については、符番変更はありません。

変更後

H27年度新規

15H12345

西暦 | 補助金・基金の別
通し番号
(Kは基金、Hは補助金を表す。)

(例示2：基盤研究(B・C)(審査区分「特設分野研究」)の符番ルール)

現 行

H26年度新規

26319999

※継続課題については、符番変更はありません。

変更後

H27年度新規

15KT1234

西暦 | 補助金・基金の別
区分・通し番号
(Kは基金、Hは補助金を表す。)

(例示3：特別研究員奨励費の符番ルール)

現 行

H26年度新規

26・12345

※継続課題については、符番変更はありません。

変更後

H27年度新規

15J12345

西暦 | 受付番号
特別研究員は「J」
外国人特別研究員は「F」

(例示4：研究成果公開促進費の符番ルール)

現 行

H26年度新規

2612345 (7桁)

261234 (6桁)

※継続課題については、符番変更はありません。

変更後

H27年度新規

15HP1234

西暦 | 区分・通し番号

(担当連絡先)

〒100-8959 東京都千代田区霞が関三丁目2番2号

文部科学省研究振興局

学術研究助成課研究費総括係

TEL 03-6734-4091 FAX 03-6734-4093

科学研究費助成事業（科研費）～学術研究を支える競争的資金の充実～

平成27年度助成予定額：231,790百万円（※）
 （平成26年度助成額：230,451百万円）
 【対前年度：+1,339百万円】

平成27年度予算額：227,289百万円
 （平成26年度予算額：227,616百万円）

【平成27年度予算案の概要】

科研費はすべての分野にわたり、あらゆる「学術研究」を幅広く支援。特に、質の高い多様な学術研究を推進するとともに、若手研究者を中心とした国際的な研究ネットワークの形成など、卓越した知の創出力を強化するため、科研費の抜本改革に着手。

<我が国の学術研究の課題>

- 物理学、化学、材料科学、免疫学、生物学、生化学など我が国が世界の先頭を競っている分野の持続的発展
- 例えばイギリスやドイツとの比較において存在感が低い学際的・分野融合的領域の研究推進
- 国際的に注目を集めている研究領域への参画という観点から相対的に低い我が国の学術研究の多様性の向上

1) 国際社会における我が国の学術研究の存在感を向上させるための国際共同研究や海外ネットワーク形成の促進

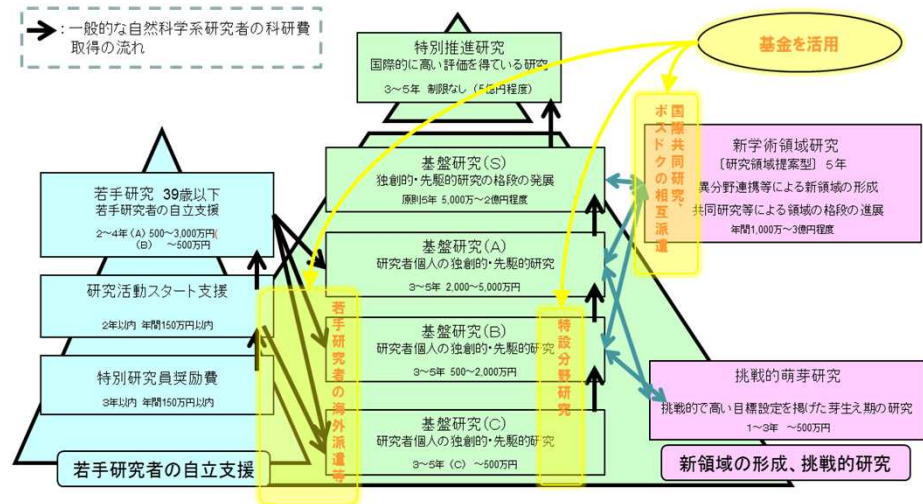
- ① 科研費に採択された若手研究者が一定期間海外の大学や研究機関で国際研究ネットワークを形成することを促進
- ② 新学術領域研究に「国際活動支援班」を創設し、我が国が強い研究領域をベースとした国際共同研究の推進や海外ネットワークの形成（国際的に評価の高い海外研究者の招聘やポスドクの相互派遣等）を促進
- ③ 海外の優秀な日本人研究者の予約採択：海外の日本人研究者の「呼び戻し」

2) 細目にこだわらない分野融合的研究を引き出す新しい審査方式の先導的試行（特設分野研究）の充実

○特設分野研究の特枠化

◎「学術研究助成基金」の交付対象の見直しにより研究費の成果を最大化

- 拡大・融合する学術研究のフィールドを積極的に押さえ国際的なプレゼンスを確立するため、科研費の質を高める国際共同研究や分野融合研究について、投資効果を最大化するために基金を活用
- 研究者の研究時間を確保するとともに、研究費の柔軟性を確保するため、基金・補助金の混合種目（「基盤研究(B)」、「若手研究(A)」）を解消して補助金を交付することにより、複雑、煩雑な制度を簡素化



【※補足】平成23年度から一部種目について基金化を導入したことにより、予算額(基金分)には、翌年度以降に使用する研究費が含まれるため、予算額と当該年度中に研究者に助成される見込の額である助成額を並記。助成額には、前年度以前に造成した基金からの助成分を含む。